

令和2年度入学生対象

別記様式1

主専攻プログラム詳述書

開設学部（学科）名〔歯学部口腔健康科学科〕

プログラムの名称（和文）	口腔保健学プログラム
（英文）	Program of Oral Health Science
1. 取得できる学位 学士（口腔健康科学）	
2. 概要 口腔健康科学科では、科学的根拠に基づき、歯学だけではなく医学、工学、看護学などの分野との連携を図り、口腔健康科学の分野での研究者、教育者及び高度先進的な医療人を育成することを目的として、2つのプログラム（口腔保健学プログラム、口腔工学プログラム）を提供しています。そのうち、口腔保健学プログラムは高度先進的な口腔保健医療人の育成、歯科衛生士職務分野の研究者、教育者の育成を行い、また、希望する者には養護教諭一種免許状を取得できるようにして、学校保健で活躍できる歯科医療人の育成を図ります。	
3. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・プログラムの到達目標） 口腔保健学プログラムでは、口腔保健と学校保健の分野で活躍できる以下の人材を養成します。 ・高度先進的な口腔保健医療人。 ・歯科衛生士職務分野の研究者、教育者。 ・養護教諭一種免許を取得し、学校保健で活躍できる歯科医療人。 そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程の定める単位を修得した者に学士（口腔健康科学）の学位を授与します。 （1）歯科衛生士として必要な基礎的教養、基礎歯科医学、臨床歯科医学、歯科衛生士専門科目、隣接医学について、総合的知識と技能を統合し活用できる。 （2）患者、スタッフと良好な対人関係を築いて、患者中心のチーム歯科医療が行える。 （3）将来、口腔保健学の研究者、歯科衛生士の教育あるいは臨床における指導的役割を担うために、最先端の知識、教育能力、情報収集能力、問題解決能力、研究能力、倫理的思考力、生涯学習能力を修得し活用できる。 （4）歯科専門知識を有する養護教諭として、学校保健の場で必要とする知識、技能、態度を修得し活用できる。	
4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針） 口腔保健学プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を学生が達成できるように、以下の方針の下に教育課程を編成し、実践します。 （1）1年次には、他学部学生とともに教養教育を受け、幅広い教養を身につけ、歯科医療人となるための知的基盤を養います。また、「教養ゼミ」におけるPBL（Problem Based Learning）により、自己主導型学習を進めるための基本的な態度・技能・知識を修得します。さらに、専門の基礎知識を修得し、専門性を深めるための基盤を作ります。 （2）2～4年次には、専門科目を履修し、専門知識と技能を修得します。この専門科目には、口腔保健	

に関する科目はもちろんですが、生命科学などの基礎科学、歯科及び隣接医学などを含みます。

(3) 3年第3・4タームと4年次に「口腔保健衛生学臨床・臨地実習」を履修し、それまでに修得した専門知識と技能を臨床現場において実施します。それを通して、専門的歯科医療、一般的歯科医療、チーム医療などについての技能・知識を修得し、コミュニケーション能力、医療人としての規範意識とマナー、社会性、協調性、判断力を身につけます。

(4) 養護教諭コース選択者は、4年次に「養護実習」を履修し、学校保健活動を行う教育者として、教職への使命感、教育的愛情、対人関係能力などを修得します。

(5) 3年第3・4タームと4年次には「卒業研究」を履修し、教員が行なっている最先端の研究に参加、あるいは口腔保健学に関する問題を自分で発見、研究、解決します。それを通じて情報収集能力、問題解決能力、研究能力、論理的思考力を修得します。

(6) バイオデンタル教育を通じて、科学的探究心に加え、多職種と連携可能な高度な学識と医療技術を養います。

なお、学修の成果は、各科目の成績評価と、各教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

5. 開始時期・受入条件

1年次（入学時）

口腔健康科学科では専攻ごとに入学試験を課しており、本プログラムは、歯学部口腔健康科学科口腔保健学専攻入学生のみを対象者として構築されています。

6. 取得可能な資格

(2) 得られる資格等

歯科衛生士国家試験受験資格（卒業と同時に得られる）

別に指定する科目を全て履修した場合、養護教諭一種免許状

7. 授業科目及び授業内容

別紙3を参照

※授業科目は、別紙1の履修表を参照すること。

※授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照すること。

8. 学習の成果

各学期末に、学習の成果の評価項目ごとに、評価基準を示し、達成水準を明示する。

各評価項目に対応した科目の成績評価をS=4, A=3, B=2, C=1と数値に変換した上で、加重値を加味し算出した評価基準値に基づき、入学してからその学期までの学習の成果を「極めて優秀(Excellent)」、「優秀(Very Good)」、「良好(Good)」の3段階で示す。

成績評価	数値変換
S（秀：90点以上）	4
A（優：80～89点）	3
B（良：70～79点）	2
C（可：60～69点）	1

学習の成果	評価基準値
極めて優秀(Excellent)	3.00～4.00
優秀(Very Good)	2.00～2.99
良好(Good)	1.00～1.99

※別紙2の評価項目と評価基準との関係を参照すること。

※別紙3の評価項目と授業科目との関係を参照すること。

※別紙4のカリキュラムマップを参照すること。

プログラムによる学習の成果（具体的に身につく知識・技能・態度）

○知識・理解

1. 人文科学や自然科学などの一般教養に関する知識・理解
2. 外国語と外国文化に関する知識・理解
3. 医の原則に関する知識・理解
4. 歯科医療従事者としての基本的な態度に関する知識・理解
5. 人の全身，歯，口腔の構造と機能に関する知識・理解
6. 疾病の成り立ち及び回復過程の促進に関する知識・理解
7. 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みに関する知識・理解
8. 歯科衛生士専門分野（歯科予防処置，歯科診療補助，歯科保健指導）に関する知識・理解
9. 学校保健に関する知識・理解

○能力・技能

1. 歯科医療従事者としてコミュニケーションを行う能力・技能及び態度
2. 情報を取捨選択し，論理的に整理し，発信する能力・技能
3. 歯科衛生士専門分野（歯科予防処置，歯科診療補助，歯科保健指導）を実践するために必要な能力と基本的技能
4. 口腔保健学に関する問題発見と研究の計画立案・推進・結果分析・結果発表を行う能力と基本的技能
5. 学校保健に携わるために必要な能力と基本的技能

○総合的な力

1. 歯科医療従事者として活動し，生涯にわたり学習する総合的な力
2. チーム歯科医療として歯科予防処置，歯科診療補助，歯科保健指導を行う基本としての総合的な力
3. 学校保健活動を行う基本としての総合的な力・技能及び態度

9. 卒業論文（卒業研究）（位置づけ，配属方法，時期等）

卒業論文を課す。

①位置づけ

教員が行っている最先端の研究に参加，あるいは口腔保健学に関する問題を自分で発見，研究，解決を行う。それを通じて情報収集能力，問題解決能力，研究能力，論理的思考力の修得を行う。

②配属方法・時期

3年次後期より配属する。配属方法は別に定めるが，学生の希望を重視する。

10. 責任体制

本プログラムの計画・実施は歯学部学部長室会議及び歯学部教授会が行う。評価検討・対処は，歯学部長が歯学部学部長室会議及び歯学部教授会に諮問し，答申内容を尊重して歯学部長が実行する。

＜口腔健康科学科 口腔保健学プログラム＞

区分	科目区分		要修得 単位数	授 業 科 目 等	単位数	履修区分	
教養教育科目	平 和 科 目		2		2	選択必修	
	基礎 大学 科目 教育	大 学 教 育 入 門	2	大学教育入門	2	必 修	
		教 養 ゼ ミ	2	教養ゼミ	2	必 修	
	領域 科目			2	全身の健康と口腔科学Ⅰ	2	必 修
				2	全身の健康と口腔科学Ⅱ	2	必 修
				4	人文社会科学系科目群から		選択必修
	共通 科目	外国 語 科目	英 語	2	コミュニケーション基礎Ⅰ コミュニケーション基礎Ⅱ	1 1	必 修 (注1)
				2	コミュニケーションⅠA コミュニケーションⅠB	1 1	
			2	コミュニケーションⅡA コミュニケーションⅡB	1 1		
			4	ベーシック外国語から		選択必修 (注2)	
		情報・データサイエンス科目		2	情報活用基礎	2	必 修 (注3)
	健 康 ス ポ ー ツ 科 目		2			選択必修	
	基 盤 科 目			4	医療従事者のための心理学 国際医学連携開発学	2 2	必 修 (注4)
				2	初修生物学 (注5) 細胞科学 人間理解のための人体解剖学Ⅰ 人間理解のための人体解剖学Ⅱ	2 2 1 1	選択必修
				2	初修化学 一般化学	2 2	選択必修
				計		36	

注1：短期語学留学等による「英語圏フィールドリサーチ」又は自学自習による「オンライン英語演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の履修により修得した単位を、卒業に必要な英語の単位(6単位)に代えることが可能である。また、外国語技能検定試験、語学研修による単位認定制度もある。

注2：ドイツ語、フランス語及び中国語のうちから1言語を選択すること。

注3：「情報活用基礎」の単位を修得できなかった場合は、情報・データサイエンス科目から履修することができる。

注4：「医療従事者のための心理学」の単位を修得できなかった場合は、「心理学概論A」又は「心理学概論B」の履修により修得した単位を、卒業に必要な単位(2単位)に算入することができる。

注5：履修すべき科目がある場合は、歯学部において指定する。なお、指定された科目以外を修得しても卒業に必要な単位に含めない。

口腔保健学プログラムにおける学習の成果

評価項目と評価基準との関係

学習の成果		評価基準		
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
知識・理解	(1) 人文科学や自然科学などの一般教養に関する知識・理解	各科目の内容を全て正確に説明でき、さらに学びを深めて展開できる	各科目の内容を全て正確に説明できる	各科目の内容のほとんどを説明できる
	(2) 外国語と外国文化に関する知識・理解	各科目の内容を全て正確に説明でき、さらに学びを深めて展開できる	各科目の内容を全て正確に説明できる	各科目の内容のほとんどを説明できる
	(3) 医の原則に関する知識・理解	各科目の内容を全て正確に説明でき、さらに学びを深めて展開できる	各科目の内容を全て正確に説明できる	各科目の内容のほとんどを説明できる
	(4) 歯科医療従事者としての基本的な態度に関する知識・理解	各科目の内容を全て正確に説明でき、さらに学びを深めて展開できる	各科目の内容を全て正確に説明できる	各科目の内容のほとんどを説明できる
	(5) 人の全身、歯、口腔の構造と機能に関する知識・理解	各科目の内容を全て正確に説明でき、さらに学びを深めて展開できる	各科目の内容を全て正確に説明できる	各科目の内容のほとんどを説明できる
	(6) 疾病の立ち立ち及び回復過程の促進に関する知識・理解	各科目の内容を全て正確に説明でき、さらに学びを深めて展開できる	各科目の内容を全て正確に説明できる	各科目の内容のほとんどを説明できる
	(7) 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みに関する知識・理解	各科目の内容を全て正確に説明でき、さらに学びを深めて展開できる	各科目の内容を全て正確に説明できる	各科目の内容のほとんどを説明できる
	(8) 歯科衛生士専門分野(歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導)に関する知識・理解	各科目の内容を全て正確に説明でき、さらに学びを深めて展開できる	各科目の内容を全て正確に説明できる	各科目の内容のほとんどを説明できる
	(9) 学校保健に関する知識・理解	各科目の内容を全て正確に説明でき、さらに学びを深めて展開できる	各科目の内容を全て正確に説明できる	各科目の内容のほとんどを説明できる
能力・技能	(1) 歯科医療従事者としてコミュニケーションを行う能力・技能	実習等において、基礎的知識を予習した上で積極的かつ探求的態度で臨み、学びを深めて展開することができる。レポートなどの作成においては、事象を客観的に評価考察し、さらに今後の課題についても客観的に考えることができる。	実習等において、態度が良好で学んだことを原理原則に基づいて応用することができる。レポートなどの作成においては、事象を客観的に評価考察することができる。	実習等において、態度が良好で、学んだことを原理原則に基づいて、展開することができる。レポートなどの作成においては、事象を客観的に記述することができる。
	(2) 情報を取捨選択し、論理的に整理し、発信する能力・技能	実習等において、基礎的知識を予習した上で積極的かつ探求的態度で臨み、学びを深めて展開することができる。レポートなどの作成においては、事象を客観的に評価考察し、さらに今後の課題についても客観的に考えることができる。	実習等において、態度が良好で学んだことを原理原則に基づいて応用することができる。レポートなどの作成においては、事象を客観的に評価考察することができる。	実習等において、態度が良好で、学んだことを原理原則に基づいて、展開することができる。レポートなどの作成においては、事象を客観的に記述することができる。
	(3) 歯科衛生士専門分野(歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導)を実践するために必要な能力と基本的技能	実習等において、基礎的知識を予習した上で積極的かつ探求的態度で臨み、学びを深めて展開することができる。レポートなどの作成においては、事象を客観的に評価考察し、さらに今後の課題についても客観的に考えることができる。	実習等において、態度が良好で学んだことを原理原則に基づいて応用することができる。レポートなどの作成においては、事象を客観的に評価考察することができる。	実習等において、態度が良好で、学んだことを原理原則に基づいて、展開することができる。レポートなどの作成においては、事象を客観的に記述することができる。
	(4) 口腔保健学に関する問題発見と研究の計画立案・推進・結果分析・結果発表を行う能力と基本的技能	実習等において、基礎的知識を予習した上で積極的かつ探求的態度で臨み、学びを深めて展開することができる。レポートなどの作成においては、事象を客観的に評価考察し、さらに今後の課題についても客観的に考えることができる。	実習等において、態度が良好で学んだことを原理原則に基づいて応用することができる。レポートなどの作成においては、事象を客観的に評価考察することができる。	実習等において、態度が良好で、学んだことを原理原則に基づいて、展開することができる。レポートなどの作成においては、事象を客観的に記述することができる。
	(5) 学校保健に携わるために必要な知的能力と基本的技能	実習等において、基礎的知識を予習した上で積極的かつ探求的態度で臨み、学びを深めて展開することができる。レポートなどの作成においては、事象を客観的に評価考察し、さらに今後の課題についても客観的に考えることができる。	実習等において、態度が良好で学んだことを原理原則に基づいて応用することができる。レポートなどの作成においては、事象を客観的に評価考察することができる。	実習等において、態度が良好で、学んだことを原理原則に基づいて、展開することができる。レポートなどの作成においては、事象を客観的に記述することができる。
総合的な力	(1) 歯科医療従事者として活動し、生涯にわたり学習する総合的な力	医療従事者として常に患者を念頭におき、生涯にわたり自主性を持って計画、企画し、学習を続けることができる	医療従事者として常に患者を念頭におき、生涯にわたり自主性を持った学習を続けることができる	医療従事者として常に患者を念頭におき、生涯にわたり学習ができる
	(2) チーム歯科医療としての歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導を行う基本としての総合的な力	各職種の役割を理解した上で、必要なニーズを考え、適切に働きかけながら医療を行うことができる	各職種の役割を理解した上で、適切に働きかけながら医療を行うことができる	チームの一員であることを認識して行動することができる
	(3) 学校保健活動を行う基本としての総合的な力	学校保健活動を行う教育者として、教職への使命感、教育的愛情、対人関係能力など教師としての資質や能力を十分に備えている	学校保健活動を行う教育者として、教職への使命感、教育的愛情、対人関係能力など教師としての資質や能力を備えている	学校保健活動を行う教育者として、教職への使命感、教育的愛情、対人関係能力など教師としての資質や能力を概ね備えている

主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

専門教育を受けるための学問的基盤を作ると共に、人文科学、社会科学、語学などを幅広く学んで知識を習得し、知的的好奇心と知的行動力を養う。さらにコミュニケーション能力や協調性、情報収集能力を身につけ、医療人としての基礎を築く。

口腔保健学プログラムカリキュラムマップ

学習の成果 評価項目	1年		2年		3年		4年		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
知識・理解	人文科学や自然科学などの一般教養に関する知識・理解	大学教育基礎科目(◎) 情報・データサイエンス科目(◎) 領域科目(◎) 健康スポーツ科目(◎) 基盤科目(◎)	情報・データサイエンス科目(◎) 領域科目(◎) 健康スポーツ科目(◎) 基盤科目(◎)	平和科目(◎)					
	外国語と外国文化に関する知識・理解	外国語科目(◎)	外国語科目(◎)			実践専門英語(◎)			
	医の原則に関する知識・理解			医療倫理学(◎)		チーム医療学(◎)	災害医療・歯科法医学(◎)		
	歯科医療従事者としての基本的な態度に関する知識・理解	口腔保健学概論(◎)				チーム医療学(◎)	災害医療・歯科法医学(◎)		
	人の全身、歯、口腔の構造と機能に関する知識・理解			歯の形態学(◎) 口腔科学基礎(◎) 歯の形態学実習(◎) 衛生行政(◎)	社会歯科学(◎) 衛生学・公衆衛生学(◎)		社会福祉学(◎) 災害医療・歯科法医学(◎)		
	疾病の成り立ち及び回復過程の促進に関する知識・理解	解剖学・口腔解剖学(◎)	生理学・口腔生理学(◎)	口腔科学基礎(◎) 組織学・口腔組織学(◎) 微生物学・口腔微生物学(◎) 免疫学(◎) 基礎栄養生化学(◎)	基礎オーラルサイエンス実習(◎)		総合医科学(◎)		
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みに関する知識・理解			病理学・口腔病理学(◎)			総合医科学(◎) 災害医療・歯科法医学(◎)		
	歯科衛生士専門分野(歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導)に関する知識・理解		口腔保健学臨床概論(◎) 臨床歯科学概論(◎)	薬理学・歯科薬理学(◎) 歯科材料学(◎) 口腔保健管理学実習Ⅰ(◎) 看護学Ⅰ(◎)	口腔衛生学(◎) 歯冠修復保健工学Ⅰ(◎) 保存系歯科学(歯内療法学)(◎) 保存系歯科学(歯周病学)(◎) 歯科放射線学(◎) 歯科麻酔学(◎) 看護学ⅡA(◎) 看護学ⅡB(◎)	発達期系歯科学(歯科矯正学)(◎) 発達期系歯科学(小児歯科学)(◎) 歯冠修復保健工学Ⅱ(◎) 外科系歯科学Ⅰ(◎) 外科系歯科学Ⅱ(◎) 障害者歯科学(◎) 成人・高齢者歯科学(◎) 歯科医療管理学示説A(◎) 歯科医療安全学(◎)	リハビリテーション概論(◎) 災害医療・歯科法医学(◎)		
		学校保健に関する知識・理解				口腔保健教育学(◎) 学校歯科保健教育論(◎) 看護学Ⅲ(△) 小児科学(△) 精神科学(△) 精神保健学(△)			
		歯科医療従事者としてコミュニケーションを行う能力・技能			歯の形態学実習(◎) 口腔保健管理学実習Ⅱ(◎)	対人コミュニケーション論(◎) 医療コミュニケーション基礎論(◎) 口腔保健行動学実習Ⅱ(◎) 口腔保健行動学実習Ⅲ(◎) 口腔保健行動学実習Ⅳ(◎) 口腔保健管理学実習Ⅲ(◎)	口腔保健行動学実習Ⅴ(◎) 口腔保健行動学実習Ⅵ(◎) 実践専門英語(◎)		
能力・技能	情報を取捨選択し、論理的に整理し、発信する能力・技能		歯の形態学実習(◎)	衛生学・口腔衛生学実習(◎) 社会歯科学(◎) 医療情報処理学(◎)		基礎看護学臨床実習(養護教諭)(△)			
	歯科衛生士専門分野(歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導)を実践するために必要な能力と基本的技能		歯の形態学実習(◎) 基礎栄養生化学(◎) チーム歯科医療学実習Ⅰ(◎)	基礎オーラルサイエンス実習(◎) 衛生学・口腔衛生学実習(◎) チーム歯科医療学実習Ⅱ(◎) 栄養指導学演習(食品学を含む)(◎) チーム歯科医療学実習Ⅲ(◎) 口腔保健行動学実習Ⅱ(◎) 口腔保健行動学実習Ⅳ(◎) 口腔保健管理学実習Ⅳ(◎) リサーチスタートアップ(◎)	歯科医療安全学(◎) 口腔保健行動学実習Ⅴ(◎) 口腔保健管理学実習Ⅴ(◎) 口腔保健管理学実習Ⅵ(◎) 摂食・嚥下リハビリテーション学(◎)	チーム歯科医療学実習Ⅳ(◎) チーム歯科医療学実習Ⅴ(◎) 口腔保健カウンセリング実習(◎) 口腔リハビリテーション学実習Ⅰ(◎) 口腔リハビリテーション学実習Ⅱ(◎) 口腔保健学臨床・臨地実習(◎)	口腔保健学臨床・臨地実習(◎)	口腔保健学臨床・臨地実習(◎)	
	口腔保健学に関する問題発見と研究の計画立案・推進・結果分析・結果発表を行う能力と基本的技能			口腔保健行動学実習Ⅰ(◎)			歯科臨床教育学(△)		
	学校保健に携わるために必要な知的能力と基本的技能				看護学演習(△) 看護学Ⅲ(△) 養護概説(△)		健康相談(△) 学校保健演習Ⅰ(△) 学校保健演習Ⅱ(△)		
	歯科医療従事者として活動し、生涯にわたり学習する総合的な力						卒業研究(◎)	卒業研究(◎)	卒業研究(◎)
総合的な力	チーム歯科医療としての歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導を行う基本としての総合的な力			チーム歯科医療学実習Ⅰ(◎)	チーム歯科医療学実習Ⅱ(◎)	チーム歯科医療学実習Ⅲ(◎)	チーム歯科医療学実習Ⅳ(◎) チーム歯科医療学実習Ⅴ(◎) 基礎看護学臨床実習(養護教諭)(△) 口腔保健学臨床・臨地実習(◎)	口腔保健学臨床・臨地実習(◎) 口腔保健管理学臨床実習(△) 口腔保健管理学臨床実習(△)	口腔保健学臨床・臨地実習(◎) 口腔保健管理学臨床実習(△)
	学校保健活動を行う基本としての総合的な力						学校保健演習Ⅰ(△) 学校保健演習Ⅱ(△)		

(例) 教養教育科目 専門基礎科目 専門科目 卒業論文 (◎)必修科目 (○)選択必修科目 (△)選択科目

口腔保健学プログラム担当教員リスト

令和2年4月1日現在

メールアドレスは末尾に
@hiroshima-u.ac.jpを追加する。

氏名	職名	担当・講座名称	メールアドレス
太田 耕司	教授	(歯学)公衆口腔保健学	otkouji
重石 英生	講師	(歯学)公衆口腔保健学	shige
野宗 万喜	講師	(歯学)公衆口腔保健学	nosou
前原 朝子	助教	(歯学)公衆口腔保健学	tmaehara
内藤 真理子	教授	(歯学)口腔保健疫学	naitom
西村 瑠美	助教	(歯学)口腔保健疫学	r-nishimura
竹本 俊伸	教授	(歯学)口腔保健管理学	takefn
松本 厚枝	講師	(歯学)口腔保健管理学	atu
仁井谷 善恵	助教	(歯学)口腔保健管理学	kakiura